ある日俺はここに居た

まことじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ある日俺はここに居た

【Ｎコード】
Ｎ０００５Ｌ

【作者名】
まことじ

【あらすじ】
ある日俺は死んだと告げられた。
俺は神に殺された。
そして俺は願いを叶えた。
真に勝手ながら一身上の都合により、休載させて頂きます

プロローグ（前書き）

初めて書きました。
駄文ですが最後までお付き合い下さい。

プロローグ

俺は気が付くと真っ白い部屋にいた。
（ここはどこだ？）
とりあえず情報を整理しよう。
俺の名前は秋月　義仁　（あきづき　よしと）高校二年生だ。
親父は普通のサラリーマンお袋は普通の主婦、祖父さんは秋月流剣術の師範だ。
俺はガキの時から祖父さんの下で剣術の指導を受けていて中学生の時には免許皆伝されていた。
まあこんなところかな、ところでここは何処なんだろうか？
（君が秋月　義仁君かな？）
白い髪に白い髭さらに白い服と全身真っ白なお爺さんが突然現れた。
（そうですけど、貴方は誰ですか？）
（儂はまあ簡単に言うと神じゃ。）
神？そんなばかな。
（そうですか、それでここは何処ですか？）
（儂の部屋じゃな。）
一体何の用だ？
（一体何の用で僕を呼んだのですか？）
（それなんじゃがな、すまん儂が君を殺してしもうた。）
はぁ？一体何を言っているんだこの爺さんは？
（どういう事ですか？）
（儂のミスで君の寿命を大幅に削ってしまったのじゃ。）
（それを謝るために僕をここに呼んだのですか？）
（そうなんじゃ、それで君を殺してしまった償いになんでも願いを叶えてやろうと思ってな。）
（では死ぬまえに戻して下さい。）
（すまん無理じゃ、君はすでに元の世界から切り離されておる。）

やっぱりか、まあ元の世界に未練は無いと言えば嘘になるがどうしても生き返りたいわけでもないしな。
（どんな事が可能ですか？）
（自分の生前に関わる事意外ならなんでも可能じゃ、オススメは今の若者なら異世界召喚なんてのはどうじゃ？）
異世界召喚か、面白そうだな。
（ならそれでお願いします。）
（魔法や魔物の有無はどうする？）
（有りでお願いします。）（今なら能力なんかもオマケしてやるぞ？）
能力か、やっぱり魔法は使いたいよな。
（魔力を最大で。）
（それだけでいいのか？）
（剣術の方は心得が有るので。）
（わかった、それでは良い旅を。）
（はい、ありがとうございました。）
そう言って段々視界が暗くなっていった。

気が付くと俺は小高い丘の上にいた。
（ここが異世界か。）
俺は腰に違和感を感じた、そこには一本の刀が挿してあった。
（神も粋なことをするもんだな。）

辺りを見回すと、遠くに町が見える。
（とりあえずあそこに行く事にするか。）
そういって俺は歩き出した。

プロローグ（後書き）

どうしたか？
注意点や修正点が有りましたら報告してください。
皆様のコメントお待ちしております。

初めての依頼

歩き始めて３０分くらいたっただろうか？まだまだ町は遠い。
（そろそろ休憩しようかな。）
その時、草むらから突然狼のような生き物が現れた。（ガルルルル）
（これが魔物か？）
刀を抜いて2、3度振ってから様子を見る。
（軽いし扱い易いな、流石神といった所か。）
狼のような物は音もなく飛び掛かってきた。
（ギャウン）
刀を一閃すると狼は真っ二つになり動かなくなった。（とんでもない切れ味だな。）
そういいながら血を払うと刀をしまいその場へ座り込んだ。
（ふぅ、大きな生き物を殺すのは初めてだが意外と罪悪感は無いもんだな。）
１０分ほど休んでまた歩きはじめた。

それから３０分ほど歩いた頃、ようやく町に着いた。３０分の道程であった魔物は狼のような物2体に蜘蛛のでかい奴1体だけだった。
（そういえば金はどうやって稼げばいいのだろう？まあ悩んでもしょうがないし人に聞くか、おっあそこに露店が出てるしあそこで聞

くか。）
（すいません、ちょっといいですか？）
（らっしゃい、何にしましょう？）
（いえ、この町ではどうやってお金を稼いだらいいかなっと思いまして。）
（あんた見たところ冒険者だろう？腕に自信が有るんならギルドに行って依頼を受けて来たらいいじゃないか。）
（ほら、向にある剣と盾が並んでる看板のある建物だよ。）
（そうですか、ありがとうございました。）
（おう、死ぬんじゃないよ、稼いだらなんか買っておくれ。）
（はい、また来ます。）
お礼を言ってギルドに向かった。

カランカラン
皆の視線が一瞬こっちを向くがすぐに前を向き皆話しはじめた。
（ここがギルドか、カウンターはっと、あっちか。）（いらっしゃいませ、どういった御用件でしょうか。）
（初めてなんでここの説明をしてもらっていいですか？）
（はいっ、ここは依頼をしたり依頼を請けたりする場所です、依頼をする場合は難易度によって料金に差があります、依頼を受ける場

合であればお客様のランクの２つ上のランクまで受ける事が出来ます、パーティーを組まれますと、１番ランクの高い人の２つ上のランクまで受ける事が出来ます。ランクは上からＳＳ、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅ、Ｆの８段階に分かれています。報酬の方ですが、依頼金の５％を差し引いた物がお客様の取り分となっております。以上ですが質問はありますか？）

（どのような依頼があるんですか？）

（配達、討伐、捕獲、採集、探索、捜索が主な依頼ですかね。）

まあ、定番だよね。

（ランクが高くなると何か特典なんかはありますか？）

（はい、ランクによってギルド管理による商店やギルド施設の割引等があります。ですがランクがＡ以上になると指名で依頼が入る事があります。断る場合には違約金が発生しますのでご注意下さい。）

（ありがとうございました、早速依頼を受けたいんですが。）

（初めてのご利用でしたね、ギルドカードを発行いたしますのでこちらの紙にお名前をお書き下さい。）

むっ見たこと無い字だな～、言葉が通じるからいけると思ったんだがな。

（すみません、代筆お願い出来ますか？）

（はい、お名前をどうぞ。）

（義仁　秋月です。）

（ヨシト　アキヅキ様ですね、ではこちらがギルドカードとなっています。身分証明となっているので無くさないでくださいね。）

（何かちょうどいい依頼ってありますか？）

（初心者の方でしたらウルフの討伐なんかがいいですね。）

（じゃあそれにします。）（では討伐証明としてウルフの大牙１０本お持ち下さい、他の歯に比べて大きいのですぐ解ると思いますよ。）

（解りました、それじゃ行ってきますね。）

そう言ってギルドを出た。

（ウルフの大牙か多分あの狼みたいな奴だよな。）
（ガルルル）
（早速来たか！）
木の陰から3体ほど現れた。
（3体か、いけるな。）
1体目が飛び掛かって来る。
ザシュ
居合で切り伏せる。
1体目がやられたせいかかかってくる様子がない。
（来ないならこっちからは行くぞ！）
2体目を一閃、3体目にも切り掛かるが後ろに飛んで逃げられる。
（中々素早いな。）
（ワォンワォォォン）
3体目が遠吠えを上げたせいで他のウルフが集まってきた。
（5体かきついな。）
2体同時に飛び掛かって来るのをかわして近い方を切る。
（くそっ！）
後ろから来た1体をかわして切る。
無茶なかわしたかをした所を2体同時に飛び掛かって来る。
（クソッ油断したか！）

2体の牙が俺の体を貫こうとしたとき！
（アイスニードル！）
目の前にウルフの串刺しが出来上がった。
（危なかったわね。）
（ありがとう、助かったよ。）
（中々実力は有りそうだけど無茶は禁物よ。）
（そうだな、勉強になったよ。）
（それはよかったわね、私はアリス、アリス・レインハルトよ。）
（俺は義仁だ義仁　秋月）（ヨシトね、ねぇヨシト私とパーティーを組まない？まだ冒険者になったばかりで一人だと心許ないのよね。）
（丁度よかった俺も成り立てで寂しかった所だ。）
（よかったわ、これからよろしくねヨシト。）
（あぁこちらこそよろしくアリス。）

初めての依頼（後書き）

コメントお待ちしております。

強敵・帰還・依頼報告

（ところで、こんな所で何をしてたの？）
（依頼でな、ウルフの大牙１０本持って行かないといけないんだよ。）
（あら、私と同じ依頼を受けてたのね、今何本集めたの？）
（まだ０本だよ今倒した分で５本だな、そっちは？）（あらさりげなく私が倒したのまで入れるのね、まあいいけど私は５本よ、これで１０本ね後１０本速く集めましょ。）
（あぁそうだな。）

俺とアリスの連携でその後は危なげなく２０分ほどかけて１０本集め終わった。（ふぅこれで、２０本二人分集めたわね。）
（そうだな、さっさと町に帰るとしよう。）
その時、今までとは比べ物にならないくらい巨大なウルフが現れた。
（大きいわね。）
（そうだな、どうする？殺るか？）
（やれるかしら？）
（たぶんな、行くぞっ！）ヨシトが素早く切り掛かるがかわされる。
（アイスニードル！）

アリスのアイスニードルが当たるが、少し傷つけるだけで刺さりきらない。
（硬いわよ！）
確かに、普通のウルフなら串刺しで終わるのにこれか。
（最も威力のあるやつはないのか？）
（有るけど時間がかかるわよ！）
それに賭けるしかないか。（時間は稼ぐ！やってくれ。）
（わかったわ。）
アリスが呪文を唱え始めた、ここからが俺の正念場だ！
ヨシトが切り掛かるがかわされ反撃してくる。
（あぶねぇ！）
ギリギリかわすがいつまでもつかわからんな。
アリスはまだ唱えてるな。（この野郎。）
切り掛かるがかわされ反撃される。
（痛っ～やっぱ鎧はいるかなぁ。）
（ヨシトッ終わったわ！一瞬でいいからそいつの動きを止めて！）
よしきたっやってやる。
（これでも喰らえっ！）
ヨシトの斬撃が巨大ウルフの前足に当たって一瞬だが動きが止まる！
（いまだっやれ！）
（アイシクルランス！）
アイスニードルより大きく鋭い氷柱が巨大ウルフに向かって飛んで行く。
（ギャイン！）
よしっ！アリスの放ったアイシクルランスが巨大ウルフに突き刺さり今までより格段に動きが遅くなった。（もう一発だ！）
ヨシトも切り掛かる、動きの遅くなった巨大ウルフにどんどん切り傷が増えていく。
（アイシクルランス！）
アイシクルランスが巨大ウルフに突き刺さり巨大ウルフは鳴き声と

ともに動かなくなった。
（やったの？）
（そうみたいだな。）
（はぁ～疲れたわまたこんな奴が出ないうちに早く戻りましょ。）
（まってくれ、こいつの牙も採っておこう。）
（早くしてよねぇこっちは中級魔法２発も撃って疲れてるんだから。）
（よしっじゃあ町に戻るか。）

そこから町に戻るまでは魔物もでず楽な道程だった。（お帰りなさい、どうでしたか。）
俺は大牙１０本を渡した。（このとうりだよ、結構楽だったよ。）
（何言ってんのよ私がいないと危なかったくせに。）（あら、アリスさんも一緒だったんですか？）
（えぇ途中で危ない所を助けてもらいましたよ。）
（はい、私の方も１０本ね。）
（はいっ確かにウルフの大牙１０本いただきました。ではヨシトさん、アリスさん報酬の銅板１になります。）
金の単位は銅貨１００枚で銅板１枚、銅板１０枚で銀貨１枚といった感じで他には、銀板、金貨、金板があるらしい。

銅貨１枚日本円で１００円程度だ。
一食銅貨１枚程度の一般家庭の月収は銅板８枚ってとこだ。
（後これなんですけど。）俺は巨大ウルフの巨大な牙を渡した。
（これはタイタンウルフの巨大牙ですね、よくお二人で狩れましたね。銅板５枚で買い取らせていただきます。）
（すいません、一枚は銅貨にしてもらえますか？）
（いいですよ、はい銅板４枚と銅貨１００枚になります。）
俺は銅板２枚と銅貨５０枚をアリスに渡した。
（ありがと。）
これで所持金は銅板３枚と銅貨５０枚か、鎧でも買いに行くか。
（俺はこれから装備見に行くけどどうする？）
（私もいくわ、此処に居ても暇なだけだしね。）
（わかった、すみません武器，防具屋ってどの辺ですか？）
（ここからでて右の大通りを真っすぐ行くと盾のマークの看板がありますそこが防具屋でそのとなりの剣のマークの看板が武器屋です。）
（ありがとうございます、また来ますね。）
（じゃあねまたくるわ。）（はい、お二人ともまたのお越しをお待ちしております。）
その声を背中に俺たちは、ギルドを出た。

強敵・帰還・依頼報告（後書き）

すみません駄文で。
良くなるように頑張っていくので応援宜しくお願いします。

鑑定・武器・防具

（そういえば貴方の剣凄い切れ味ね、あのタイタンウルフには、私のアイスニードルでも少ししかダメージ与えられなかったのに。）
（こいつは刀といってな切れ味だけは抜群なんだ、まあ刃を立てないとすぐに折れてしまうんだけどな。）
（もうその刀は鑑定してるの？）
鑑定か、この刀について知る良い機会だ、やってみるか。
（いや、まだだな鑑定は何処で出来るんだ？）
（武器屋でやってもらえるはずよ、ほら着いたわよ。）

（いらっしゃいませー。）おぉ、凄いな小剣に大剣、斧や槍いろいろ有るな。
（ここは、鑑定は出来るのか？）
（はい出来ますよー、一つにつき銅板1枚頂きます。）
俺は、刀を差し出しこう言った。
（こいつの鑑定を頼む。）（はい、5分ほどお待ち下さい。）
そのまま定員は奥に入っていった。
少し武器でも見て回るか。（何か良いものでもあったの？）
（いやまだだそっちはどうだ？）
（私はこの氷石の杖を買うわ、持っているだけで氷属性魔法の威力が上がる優れ物よ。）

そういえばまだ魔法に手を出してなかったな、せっかく神に魔力を貰ったんだ使わないと罰が当たるかな。（俺に魔法を教えてくれないか。）
（良いけど簡単に使える物じゃないわよ？）
（あぁ後々使えるよいになりたいんだ。）
まあ俺の魔力は最大のはずだからすぐ使えると思うがな。
（鑑定出来ましたよー。）（ありがとう、どんな物だった？）
（はい凄い逸品です、貴重な魔法鉱石であるオリハルコンを原料とした魔法刀で、それに掛っている魔法は、切れ味を最大に保つものに強度を底上げする物でした。）
それは凄いな、もう武器はこれ一本で充分だな。
（ありがとう、はいこれ。）
そう言って銅板を一枚渡した。
（はい確かにいただきました。）
（私はこれを買うわ。）
氷石の杖を渡しながらいった。
（はい、氷石の杖ですね、銅板２枚と銅貨５０枚になります。）
（はい、これでいいわね。）
アリスはそう言って金を渡した。
（まいどありがとうございましたー。）
そう言われつつ店を出た。（その刀どんな物だったの？）
（オリハルコンで出来た魔法刀だってさ。）
（オリハルコンですって！なんでそんな貴重品貴方みたいな駆け出しの冒険者が持ってるの！）
あちゃー、そんなに貴重品だったのか。
（後で話すよ、此処は人通りが多いからな。）
（後で絶対話しなさいよ！）
いろいろ大変だな、あぁ着いたな此処が防具屋か。
（ほら入るぞ。）
そういって俺は店に入る。

（おう、いらっしゃい。）（銅板２枚で買える防具をくれ。）
（お客さん見たところスピード重視の戦士だね？ならこいつはどうだい、ウルフの革で作ったコートだ中々の防御力が有るぜ。）
中々良いな、これにするか。
（おやじ、いくらだ？）
（銅板１と銅貨５０って所だな。）
（ほらよ。）
（まいどあり、ほらオマケだ持っていきな。）
そういっておやじは何か投げた。
なんだこれは？ネックレスか？
（ウルフの大牙のネックレスだ、装備するだけで素早さの加護が受けられるぜ。）
おぉ中々の優れ物だな。
（いいのか？）
（おうよ、そのかわりまた来てくれよな。）
（ありがとな。）
おやじとの話が終わったあとアリスに話かけた。
（なんか買うのか？）
（止めとくわ、もうお金もないしね。）
（なら行くか。）
そういって店を出た。

（もう夕暮れだな。）
（そうね、貴方泊まる所は有るの？）
そういえば宿はとってなかったな。
（いやないな、宿は何処にあるか知ってるか？）
（何言ってるのよ目の前にあるでしょ？）
目の前には月と星の描かれた看板のある建物があった。
（あそこか、アリスは何処に泊まるんだ？）
（私はそこの宿にもう部屋は取ってあるは、そうだヨシト私と同じ部屋に泊まりなさい、貴方の事話して貰うわよ。）
（おいおい男と女が一つ屋根の下はまずいだろ。）
（関係ないわ早くしなさい。）
（はぁ、分かったよさっさと行こうぜ。）
こうして俺達は宿へと足を進めた。

鑑定・武器・防具（後書き）

コメント待ってます。

ヨシトの話・今後の予定（前書き）

セリフの括弧を（）から『』にかえました、技名を（）の中に入れるようにしました。
あと、一文ずつ空欄をあけることにしました。

ヨシトの話・今後の予定

カラン、カラン

『あら、アリスさんお帰りなさい、そちらの方は？』

『こいつはヨシト、私とパーティーを組む事になったのよ。』

『そうなんですか、私はリリアといいます、それでヨシトさんお部屋の方はどうしますか？』

『いや、俺はアリスと同じ部屋に泊まろうかと思ってるんだが。』

『あらあら、そうなんですか、フフフッベッドは一つのほうがいいですか？』

完全に勘違いしてるな。

『いや俺は、』

『ちょっとリリア何言ってるのよそんなんじゃないわよ、ヨシト行くわよ。』

『じゃあそういう事で。』ヨシト達は上に上がって行った。

『まったくリリアは何言ってるのかしら、私とヨシトはそんなんじゃないっての。』

『そんなに恋人に見られるのが嫌だったのか？』

『当たり前じゃない、なんであんたなんかと。』

『そうか、俺はアリスみたいな可愛い子の恋人に見られて嬉しかったけどな。』

『可愛いってあんたなに言ってんのよ！

ほら着いたわよ早く入ってあんたの事教えなさい。』

『ハイハイ。』

全く可愛いだなんてなに言ってんのよ・・・。

ヨシト達は部屋に入って行った。

アリスは、椅子に座わってこう言った。
『さあヨシト、貴方の事を教えなさい。』
『どうせ言っても信じないと思うぞ。』
『いいから話しなさい！』
『実は、俺はこの世界の人間じゃないんだ。』
『そんな冗談はいらないわ。』
だから言いたくなかったんだよなぁ。
『冗談じゃないんだよ、俺は地球の日本と言う所から来たんだ。』
『本当なの？』
『本当だ。』
『ならどうやって来たのか言ってみなさいよ。』
『神に連れて来てもらった。
その時いろいろオマケしてもらってな、この刀もその一つだ。』

一度死んでる事は言わなくてもいいだろう。

『他にはどんな事できるの？』

『魔法はまだ使えないが魔力を最大にしてもらった、後はこの世界の言葉が話せるくらいかな。
ちなみにこの世界の字は書けないぞ。』

『なら証拠として元の世界の文字を書いてみなさいよ。』

『良いぜ、〔秋月　義仁〕っと、ちなみにこれは俺の名前だ。』

『私の名前は書ける？』

『書けるぞ、〔アリス・レインハルト〕っと、これだ。』

『適当に書いたわけじゃなさそうね、なら魔力を最大にしてもらったって言うのも本当なの？』

『本当だぞ。』

『なら掌に力を集めるようにしてみなさい、そして解放するようにしながら（フラッシュオーブ）と言うのよ。』

『こうか、（フラッシュオーブ）。』
その瞬間部屋が光に包まれる。

『うおっ。』

『キャッ。』

光が消えると元の部屋のままだった。

『なんだったんだいまの？』

『びっくりしたわ、魔力が最大ってのもあながち嘘じゃないのかもね。

よかったは教えたのが（ファイヤー）とかじゃなくて、もしそうなら丸焼けになるとこだったわ。』

『今のが魔法か？』

『そうよ、少し規格外だけどね、取りあえず貴方は魔力の制御を練習したほうがいいわね、制御するには掌に集めた力の解放する量を調整するのよ。』

『これでいいのか、（フラッシュオーブ）』

人の頭位の光の球が現れた

『まだ大きいわ、その三分の一くらいの量でいいわ。』

『こうか、（フラッシュオーブ）。』

ソフトボール位の光の球が現れた。

『そのくらいねってか、いつの間にか話がそれてたわね、取りあえず貴方の事は信じるわ。』

『そうか、ありがとう。』よかった、信じて貰えたようだな。

『それじゃ明日からの予定を決めましょうか。』

『そうだな、取りあえずはこの世界の勉強だな、後はギルドで依頼でも請けてランクを上げながら金でも稼ぐか。』

『魔法の練習もわすれちゃだめよ、明日は簡単な回復魔法と攻撃魔法を教えるわ。』

『よしっそうと決まったら早速寝るか、もう夜も遅いしな。』

『そうね、じゃあ貴方は床ね、私はベッドで寝るから。』

『えぇ、自分が誘っておいて俺は硬い床の上かよ。』

『そうよ？それとも貴方はか弱い女の子を床で寝させる様な鬼畜なの？

それとも今日あったばかりの女の子と一緒のベッドで寝たがる変態なのかしら？』

ぐっ、なにも言い返せん。

『わかったよ、俺が床で寝るよ。』

ちくしょう、覚えてろよ。

『そう、オヤスミ。』

『あぁ、オヤスミ。』

こうして夜は更けていった。

ヨシトの話・今後の予定（後書き）

どうでしたか？
すこしは読みやすくなったでしょうか。
コメント待ってます。

露店商・依頼受諾

『此処はどこだ？なんで俺は床で寝てるんだ？』

『なに寝ぼけたこと言ってんのよ、早く支度しなさいご飯食べに行くわよ。』

あぁそうか、俺は異世界に来たんだったな。

『少しまってくれ。』

そういいながら俺は着替えだした。

『アリスさん、ヨシトさん、おはようございます。』

『おはよう。』

『おはようリリア、朝ご飯用意してくれる？』

『はい、少し待ってて下さいね。』

そう言ってリリアは奥に入っていった。

『アリスちょっといいか？』

『なに、どうしたの？』

『少し行きたい所があるんだ。』

『いいわよ、私も着いて行っていいかしら？』

『あぁ、構わないよ。』

『ありがと、ほら朝ご飯が来たわよ。』

『お待たせ、今日のご飯はパンとベーコンそれに目玉焼きよ。』

おぉ普通に美味そうだ、異世界だから少し心配してたんだよな。

『ありがと。』

『ありがとね、じゃあさっさと食べて行きましょうか。』

『そうだな。』

朝ご飯を食べ俺達は宿をでた。

『ふぅ、美味かった。』

『そうね、リリアは料理上手よ。』

『それじゃ着いて来てくれ、こっちだ。』

『そういえば何処に行くのか聞いてなかったわね。』

『アリスと会う前に世話になった人の所だよ。』

『へぇーどんな人なのその人って。』

『いやよくわ知らないんだけどな、ほらあそこの露店のおっさんだよ。』

『こんにちは。』

『おうボウズ、ちゃんと生きて帰って来たのか、でそっちのお嬢ちゃんは？』

『依頼の途中で会ってそのままパーティーを組むことになったんだ。』

『ほうそうなのか、ところでなにか買って行くか。』

『どんな物が有るんだ？』

『アクセサリーだ、値は張が魔法効果の付いた物もあるぜ。』

魔法効果か、アリスにでもプレゼントするか。

『銅板一枚で買えるオススメはあるか？』

『これなんかどうだ？

魔力の最大値を少し増やしてくれるもんだ。』

そういいながら緑色の石が付いたネックレスを指差した。

『銅板一枚だよな、それ貰うよ。』

そういいながら、俺は金を渡した。

『まいどあり、また来てくれよ。』

『あぁまたくるよ。』

そういって店をあとにした。

『なにかいいものでもあった？』

『あぁ、これを買ったよ。』

そういいながら緑色の石がついたネックレスを差し出した。

『やるよ、魔法の授業料だと思ってくれ。』

『あら、ありがとう。
どんな効果があるのかしら。』

『魔力の最大値があがるらしいよ。』

『それはいいものを買ったわね、ありがとう使わせて貰うわ。』

そういってアリスは首に掛けた。

『それじゃギルドに行くとするか。』

『そうね、行きましょうか。』

俺達はギルドに向かって歩きだした。

カランカラン

カウンターに向かって歩いて行く。

『こんにちはアリスさんヨシトさん、今日はどのような依頼をお探しかしら。』

『ヨシトの魔法が出来そうな依頼はないかしら。』

『それだと、シルベス洞窟にでる、ストーンリザードなんてどうでしょう。』

『それにするわ、討伐証明部位は何処かしら。』

『目玉です。』

『目玉?、わかったわ。』

おいおい目玉かよ、グロいな。

『どんな生き物なんだ?』

『石みたいな鱗に覆われた大きなトカゲですよ。』

『剣は効きにくいから魔法の練習にピッタリってわけね。』

『本当に俺の魔法で倒せるのか？』

『大丈夫よ、シルベス洞窟に着く前に一通りの魔法は教えるわ。』

『まあいざとなったらアリスがなんとかしてくれるしな。』

『フフフッ、アリスさん頼られてますね。』

『まったく、じゃあストーンリザードの討伐受けるわ。』

『わかりました、シルベス洞窟は町からでて北の山に向かうとありますよ、はいこれ一応地図も渡しておきます。』

『それじゃ行ってくるわ。』

『はい、気をつけてくださいね。』

『私とヨシトがいれば無敵よ。』

『いや無敵は言い過ぎだろ。』

『フフフッ、それじゃいってらっしゃい。』

『行ってきます。』

俺達は、ギルドを後にした。

露店商・依頼受諾（後書き）

そろそろストーリー持たせないと話が続きそうにないですね。
どんな感じがいいのかコメントください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0005l/

ある日俺はここに居た

2010年10月10日02時18分発行